2023 年合同例会 C グループ(岩岳頂上散策)報告

記　青景平昌

前日の体調によって、参加するグループを変更したため、最終的にCグループは 8 名に増えた。

ホテルから車でゴンドラリフトの山麓駅まで上り、そこからゴンドラで山頂駅まで一気に登り、岩岳山頂からの後立山連峰等の眺望を楽しむという最も体力を要しない組である。白馬岩岳地区は、「スキー場は夏に儲けろ」とばかりに、スキーシーズン以外の積極的な集客事業を展開しており、頂上にガラス製展望台や大型のブランコを設けたり、東京の超人気のパン屋を誘致したり、下降にはスキーならぬマウンテンバイクのダウンヒルコースを整備するなどをしている。　スキー場の生き残りをかけたこの挑戦は一定の成果を得ているようで、注目を浴びている。我々グループは、八方尾根を登る A、B グループにここから応援エールを送りたいと思った。

1．日時 2023 年 7 月 23 日（日） C グループ（岩岳頂上散策組）：

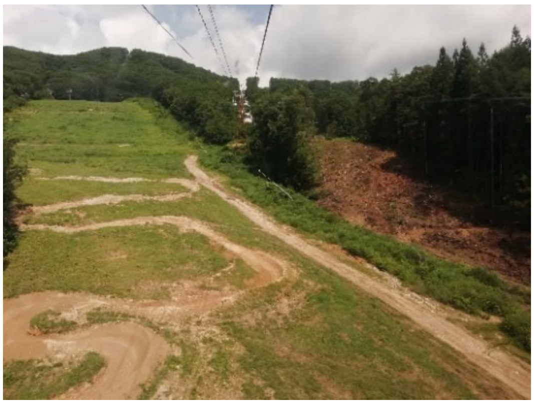
2．参加者 ：L 青景平昌、平田和久、末永一郎、川口昭博、田賀雅文、西田哲次、
高野葵、石田雅則　　以上 8 名

3．行動記録：

8:40　C グループ 8 名は、A、B グループの出発を見届けて、3 台の車に分乗して出発した。途中、コンビニによって食料を購入して、ゴンドラリフトの山麓駅の無料駐車場に向かった。駐車場には、マウンテンバイク用のキャリヤーを付けた車が多く駐車しており、マウンテンバイクのダウンヒルを目的とした人が多いのが分かる。ウインターシーズンのスキー滑走と同じようにバイク滑走を楽しむ人が多く集まっている。

9:13 山麓駅から 6 人乗りのゴンドラリフトにのる。ゴンドラからは、緑の樹木の間のスキーコースに重なって、マウンテンバイクのダウンヒルコースも整備されているのが

ゴンドラの乗り場（サイドにマウンテンバイクを乗せる）



マウンテンバイクのダウンヒルコース

見て取れる。約 9 分の乗車時間で標高 1289m の岩岳頂上駅に着く。

ゴンドラリフトの山頂駅

山頂のパラソル広場

山頂のマウンバイクのラック

9:24 岩岳山頂エリアの散策。

岩岳の頂上は緑に覆われているのに、なぜ岩岳と書くのだろうと話題にしていたら、頂上には岩茸山山頂（1289.6m）の標識があった。

頂上エリアには、テーブル附きのパラソルを置き、大型のブランコ、展望台付のレストランがあり、遊園地化している。 山頂駅から東側斜面にはバイクのダウンヒルのスタート地点があり、バイク用のラックが整備されている。

レストランの展望台（白馬マウンテンハーバー）からは、残念ながら後立山連峰や八方尾根の上部はガスに覆われて見えなかった。ガスがなければ見えたであろう山並みを想像しながらしばし休憩する。

岩茸山山頂（1289.6m）の標識

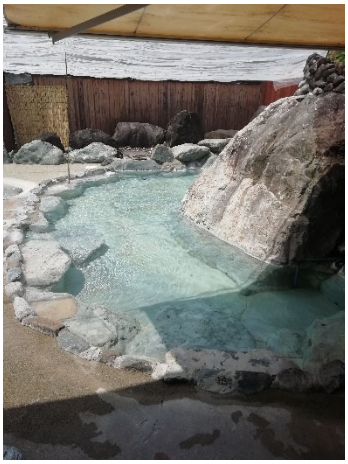
昼食は、ブナ林の木陰のテラスでとった。その休憩中に、八方池山荘にいる津田さんから、藤井明さんの急逝が驚きを持って知らされた。亡くなられたのは昨夜の 22 時 50 分であったとのことであった。入院するので今回は欠席するとの連絡を、1 か月前に受けたばかりでした。当初の予定では、この場に一緒におられたのにと思うと、本当に残念でした。

頂上エリアのブナ林の木陰のテラスで歓談

12:10 頂上駅発
八方池山荘から上部はガスで覆われている八方尾根を横に眺めながら、ゴンドラリフトで下った。ゴンドラリフトの沿って新たにゴンドラリフトの鉄塔の基礎工事が進められていた。どんどん変貌してゆく地域のように思われた。12 時 20 分に山麓駅に着く。

12:40～13:20 露天風呂「おびなたの湯」
松川を遡って白馬大雪渓に向かう途中の淵にある露天風呂「おびなたの湯」に向かう。過去の例会登山でも入浴した温泉で、今回もそのワイルドさを楽しみにしていたが、以前よりは、大分整備されているようだ。
炎天の直射日光で焼け付いた叩きの岩に水をかけて冷やしてから、岩風呂につかった。この強烈な暑さは天候が回復した証なので、A、B グループの無事な登山を確信した。

露天風呂「おびなたの湯」


天然岩で囲われた岩風呂

14:00　KC 着
温泉の後は、阿部さんと加賀谷さんが待つ KC に直行し、BBQ 大会の準備に合流した。

－以上－